

ネジロシマケンモン *Cranionycta*  
*oda* DE LATTIN 1949 について

杉 繁 郎<sup>1)</sup>

Notes on the genus *Cranionycta* DE LATTIN, 1949, with record of  
*oda* from Japan (Noctuidae, Apatelinae)

By SHIGERO SUGI

ケンモン亜科 Apatelinae の 1 属 *Cranionycta* DE LATTIN, 1949 は比較的最近にウスリー産の 1 種 *oda* DE LATTIN を模式種として作られたもので、外部形態は *Apatete* とほとんど変りがなく、その斑紋からは属 *Cranioniphora* にきわめて似ているが、腹背に冠毛をもたないことで区別される。一方その交尾器をみると、細長い単純な valva をもち、harpe を全く欠いていることで上記の両属と異っている。原記載では全形図が示されていないが、交尾器のスケッチがついており、私はこの蛾の日本からの発見に以前から関心をもっていた。

ところが1957年当時兵庫県柏原町におられた山本義丸氏から、はからずも明かにこの属の 1 種と思われる 1 対の標本を頂くことができた。私はこの標本を調査した結果、これが正しく *Cranionycta oda* DE LATTIN にまちがいないと信ずるに至ったので、こゝに報告しておきたい<sup>2)</sup>。

*Cranionycta oda* DE LATTIN

ネジロシマケンモン

前翅の地色はうすい灰白色、基部は後縁部を除いてやゝ緑色をおびた黒褐色、内横線は不規則に屈曲しつつかなり外方に傾斜し後縁の中央より外方に終り、その外方翅表中央は基部と同じく緑色をおびた黒褐色に広く染められる。環状紋は不明瞭、腎状紋は暗色に縁どられ、その中央には縦に暗色条をもつがあまりはっきりしていない。亜外縁線は他の *Cranioniphora* の種のように 2 重で鋸歯状をなしている。後翅はくらい灰褐色。日本産のケンモンの中では *Cranioniphora praecleara* GRAESER ニツコウシマケンモンとをもってよく似ているが、一そう小型なこと、環状紋が不明瞭で、内横線が強く傾斜していること、基部後縁や亜外縁線の外側に黄緑色鱗片をもたないことなどで容易に区別される。

1♂1♀、兵庫県氷ノ山、23-VI-1957 (山本義丸採集)。

開張 ♂ 33 mm, ♀ 35mm. 杉 所蔵。

私はこの蛾の写真を、Hamburg の Zoologisches Staatsinstitut の Prof. Dr. GUSTAF DE LATTIN に送り、*oda* の模式標本との比較を依頼したところ、同教授からそれらがよく一致する旨の返信とともに、*oda* の模式標本の写真が同封されて来た。この写真は従来未発表なので、こゝに掲出して、DE LATTIN 教授の御好意に報いることとしたい。

属 *Cranionycta* は上述したように 1 属 1 種として記載されたが、その後に明かにこの属に入るとされるものはいくつか記載されている。これらはいずれも 1950 年に、おそらく DE LATTIN の論文を見ることなしに発表さ

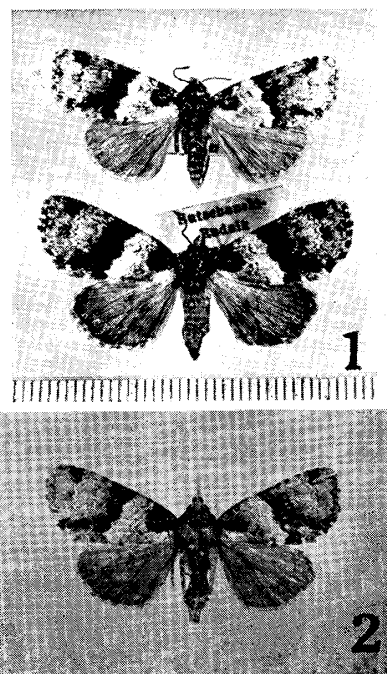


Fig. 1. *Cranionycta oda* DE LATTIN. Holotype ♂ (upper) and allotype ♀ (lower). Sutchanski-Rudnik. In coll. Zoologische staatsinstitut, Hamburg. (Prof. DE LATTIN photo)

Fig. 2. *Cranionycta oda* DE LATTIN. ♀. Hyōnosen, Hyōgo Pref., 23. VI. 1957 (Y. YAMAMOTO). In coll. SUGI.

1) 東京都大田区入新井 4-112.

2) 井上, 杉: 日本産蝶蛾総目録, 5: 619, 1958 ではとりあえず日本未記録として収め、和名をネジロシマケンモンと命名した。また日本昆虫大図鑑, 1 (印刷中) には本種の原色図が示されるはずである。

れたものである。その中の1つ、*Craniophora transversa* KOZHANTSHIKOV は、南沿海州 (Ussuri, Sutchan, Sedanka, Sitza River) 及び朝鮮の標本によって記載されたもので、全形図は示されていないが、その分布から見てもまちがいがなく *oda* の synonym であると考えられる。そうしてみると本種は大陸ではすでにかなりの標本が得られているようである。もう1つは、中国の West-tien-mushan から記載された *Craniophora inquieta* DRAUDT で、その♂交尾器の写真は、*oda* とよく似ていて、明確な区別点を見出すことができない。しかしその全形図 (♀) を見ると、*oda* よりもかなり小型なこと (開張: 27-29 mm) や前翅の斑紋が相当異っていることから見て、少くとも *oda* の別亜種以上のものであることは確かである。それでなお研究が進むまではこれを一応別種として扱っておくべきであろう。

DRAUDT は同時に中国の Mien-shan から、“Zenobiinae” の新属新種として *Miracopa prodigiosa* DRAUDT という蛾を記載している。ところが BOURSIN<sup>3)</sup> によると、この蛾は “Zenobiinae” ではなく、いわゆるケンモンの仲間であって、その♂交尾器形態は明かにこの種が *Cranionycta* の1種であることを示しているという。けれども全形図から見ると、*prodigiosa* は *oda-transversa-inquieta* 群とは全然異なる斑紋をしており、直接 *oda* の同定とは関係がないようである。

このように、近年になって急に東亜の各地から属 *Cranionycta* についての知見が報告されているのは興味深いことで、おわりにこの属の目録をかゝげて直接原文を参照する人の手引きとしておく。貴重な標本を快く提供して下さい山本義丸氏に感謝する。

#### Genus *Cranionycta* DE LATTIN, 1949

*Cranionycta* DE LATTIN, Zeit. Wien. ent. Ges., 34 : 108, 1949

*Miracopa* DRAUDT, Mitt. Münch. ent. Ges., 40 : 119, 1950

##### 1. *Cranionycta oda* DE LATTIN, 1949

*Cranionycta oda* DE LATTIN, Zeit. Wien. ent. Ges., 34 : 108, text-fig. 3 (♂-genitalia), 1949

*Craniophora transversa* KOZHANTSHIKOV, Fauna, SSSR, Lepidoptera, 12 : 540, text-fig. 280 (♂- and ♀-genitalia), 1950

Distr. Ussuri, Korea, Japan (Honshu).

##### 2. *Cranionycta inquieta* (DRAUDT, 1950)

(?subsp. of *oda*)

*Cranionycta inquieta* DRAUDT, Mitt. Münch. ent. Ges., 40 : 7, t. 1, fig. 22 (♀); t. 10, fig. 4 (♂-genitalia), 1950

Distr. China (West-tien-mushan).

##### 3. *Cranionycta prodigiosa* (DRAUDT, 1950)

*Miracopa prodigiosa* DRAUDT, Mitt. Münch. ent. Ges., 40 : 119, t. 8, fig. 5 (♂), 1950

Distr. China (Mien-shan).

#### Summary

*Cranionycta* DE LATTIN was established in 1949 for a single species *oda* from Sutchanski-Rudnik, which is characterized by the closely *Craniophora*-like pattern of forewing, combined with uncrested abdominal segments, and more essentially by the structure of male genitalia which show very simple, elongate valva with completely missing harpe. Two more species having the similar type of valva are later described in 1950 by KOZHANTSHIKOV and DRAUDT, for both of whom it was unfortunate that DE LATTIN's paper appeared too late to make reference. I consider that *transversa* KOZH. may very probably be a synonym of *oda* described from nearly the same locality, but another one *inquieta* DRAUDT seems to be separated from *oda* by its smaller size of expanse and somewhat dissimilar appearance of forewing, leaving for future study a slight possibility that it could be the Chinese race of *oda*. There is before me a pair of *Cranionycta* species collected in Japan by Mr. Y. YAMAMOTO (Hyōnoson, 23. VI. 1957) who kindly sent me his interesting specimens for identification. I have now concluded them to be undoubtedly *oda*, by the kind help of Prof. Dr. GUSTAF DE LATTIN of Zoologisches Staatsinstitut in Hamburg, who generously provided me with a photograph of the types *oda*, shown first here in fig. 1, and to whom I express my best appreciation. The synopsis of the genus will be appended above. The association of *Miracopa prodigiosa* DRAUDT with this genus was already mentioned by BOURSIN (1952).

3) BOURSIN CH. Zeit. Wien. ent. Ges., 37 : 136, 1952.